

4) 暮らし景観

長い時間をかけて先人たちが自然との共生による営みは、伝統的な様式によってつくられた集落や、祭りなどの地域の行事といった形で今でも地域に息づいています。そして、この上に今を生きる私たちの生活が重なることで、本市の景観がつくりあげられています。古いものをまもりつつ、新しいものと融合した現代の暮らしそのものが本市の重要な景観資源となります。

■景観資源図（暮らし景観）



(1) 集落

自然の恵みに感謝し自然の厳しさを受け入れ、自然とともに生きてきた伝統的な集落景観が市内各地に姿を残しています。瓦葺き屋根や石垣、屋敷を囲うフクギなど集落景観を特徴づけている要素は、自然とともに生きてきた先人たちの知恵の結晶であると言えます。



比嘉集落(勝連比嘉)



浜集落(勝連浜)



上原集落(与那城上原)



宮城集落(与那城宮城)



伊波集落(石川伊波)



山城集落(石川山城)



天願集落(字天願)



具志川集落(字具志川)



田場・大田集落(字田場・大田)



上江洲集落(字上江洲)



南風原集落(勝連南風原)



屋慶名集落(与那城屋慶名)



平敷屋集落(勝連平敷屋)



池味集落(与那城池味)



桃原集落(与那城桃原)



伊計集落(与那城伊計)



ガーラ缸(勝連内間)



嘉手苺観音堂(石川嘉手苺)

(2) 市街地

建築様式や工法の変化によって、本市の景観は、コンクリートなどでできた建築物や構造物中心の景観に変わりつつあります。その中でも安慶名地区のように、現代の新しい様式を取り込みながらも地域の風土や文化を活かした街並みづくりに取り組んでいる地区もあります。



石川の碁盤目状のまち(石川)



石川公園(石川)



外人住宅周辺(石川)



安慶名地区(字安慶名)



市役所本庁舎(みどり町)



うるま市中央図書館(字平良川)



新夢咲公園(勝連南風原)



県道 239 号線(与那城屋慶名)



県道 37 号線(与那城の中心の通り)(与那城屋慶名)

(3) なりわい・産業（農・漁・工・商の景観）

農業、漁業、工業、商業など、市民の生活や活動を支える生業（なりわい）・産業の景観は重要な景観資源の一つです。特に、農業・漁業は、自然の風土と共存しつつ長い年月をかけて育んできた人々の営みの姿であり、地域の原風景を思い起こさせる風土景観として市民からも愛されています。



兼箇段のキク畑(字兼箇段)



山城の茶畑(石川山城)



照間のイグサ(ピーグ)畑(与那城照間・字照間)



農業景観(字前原・高江洲・豊原・塩屋・川田)



勝連半島西側のサウキビ畑(勝連南風原・平安名)



津堅島の土地改良区(勝連津堅)



伊計島の土地改良区(与那城伊計)



宮城島の土地改良区(与那城上原)



石川漁港(石川)



セリの風景(与那城平安座)



伊計漁港(与那城伊計)



石川火力発電所(石川赤崎)



具志川火力発電所(字宇堅)



中城湾港新港地区工業団地(字州崎)



平宮の石油基地(与那城平宮)



石油企業のシーバース(与那城)



製糖工場(字川田)



市役所前の通り(沖縄石川線)(みどり町)



県道8号(与那城)



安慶名地区(字安慶名)



ぬちまーす(与那城宮城)

(4) 伝統・芸能・まつり

伝統的な行事、芸能、まつりなども、生活と密着した風物詩として、うるまらしさを彩る重要な景観の一つです。例えば、闘牛・エイサーなどが代表的です。本市は闘牛のメッカで、沖縄一の規模を誇る安慶名闘牛場や石川多目的ドームなどで、春、秋の全島闘牛大会等が開催され、盛況を呈しています。また、エイサーは青年男女が各地域をまわりながら、先祖の霊をなぐさめる勇壮な踊りで、毎年旧盆におこなわれています。特に勝連平敷屋、与那城屋慶名、具志川赤野のエイサーは県下でも有名で、旧盆の時期には近隣市町村からの見学者で賑わいます。また、屋慶名、平敷屋エイサーは「日本の音風景百選」にも認定されています。また、古い集落には拝所など神をまつり拝む場所があり、今も定期的に行われるウガミなどの伝統行事とともに、集落の人々が大切にまもり続けています。



安慶名闘牛場(字安慶名)



エイサーなどの祭事(写真は屋慶名エイサー)



肝高の阿麻和利をモチーフにした舞台



平敷屋ヒッチャマー(勝連南風原)



シルミチュー(勝連比嘉)



浜千鳥の歌碑(字赤野)



アマミチューの墓(勝連比嘉)



シヌグ堂(東の御嶽)(勝連浜)



東恩納闘牛場(石川東恩納)



屋慶名闘牛場(与那城屋慶名)



石川多目的ドーム(石川)